

中村確堂 なかむら たかどう 漢學者。天保二年十月八日近江國水口藩邸生れ、明治二十年三月二日歿（八三―卒）。舊姓山縣、諱辨、字士訓、幼名彦吉、通稱（二治（次）、鼎鐘、中村鼎五、中村鼎、中村（郎）鼎五。別號十三松堂、十三松外史、憶松堂、確堂仙史、確堂學人等。弘化三年水口藩儒中村栗園の養嗣子となる。嘉永元年十七歳で養父の代りて書を講じ、尊皇教育に努めた。征長戦、戊辰役に活躍。明治二年學校督學、六年修史館に入り、十二年已降崎王、滋賀で教職。十九年京都に移居。

巽太郎原稿・中村鼎五校訂『滋齋文鈔』（明治十一年十一月七日擁萬堂）、頼山陽口授・中村確堂編集『評本文章軌範』全三冊（明治十一年十一月二十五日龜谷竹一出版、石川治兵衛發兌）、『文章正鵠』全二冊（中村鼎五名、明治十一年一月敬文堂藏、内藤傳右衛門支店・宮寫儀三郎發兌）、『尚友小史』（中村鼎五名、第一輯・明治二十五年十一月二十八日混々舎藏、京都・北村四郎兵衛刊）等がある。

